英国ヘルスケア通信

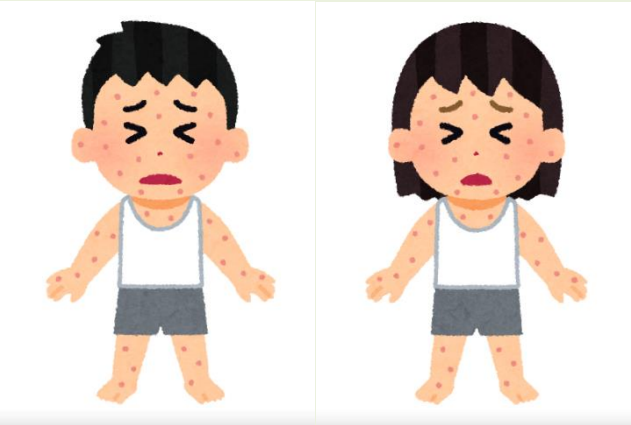
日本クラブ

Vol. 12　2022年6月

水疱瘡の流行とワクチンについて

最近、英国のナーサリーや elementary schoolで水疱瘡が流行しているというのをご存知でしょうか。英国では小さな流行はよく起こりますし、大きな流行でニュースになることも数年おきにあるようです。水疱瘡は空気感染、飛沫感染、接触感染するとても感染力の強い病気です。水疱瘡ワクチンは英国の定期接種スケジュールに入っていないため注意が必要です。

日本では水疱瘡ワクチンは2014年から定期接種になっており、1歳から始まり2回接種を行います。日本や米国の定期接種で2回接種されたお子さんはよいのですが、英国では定期接種に入っていないため、英国で生まれて英国のスケジュールでワクチン接種をしていると、水疱瘡のワクチンがすっぽり抜けてしまう場合があり注意が必要です。ワクチン接種を1回していると感染を防ぐ効果は約77％、2回接種で約94％防げ、重症化（小脳炎や肺炎、皮膚感染など）に関して言えばほぼ100％防げます。米国の観察結果からは、1回接種だけでも重症化のリスクは1/13になると言われています。



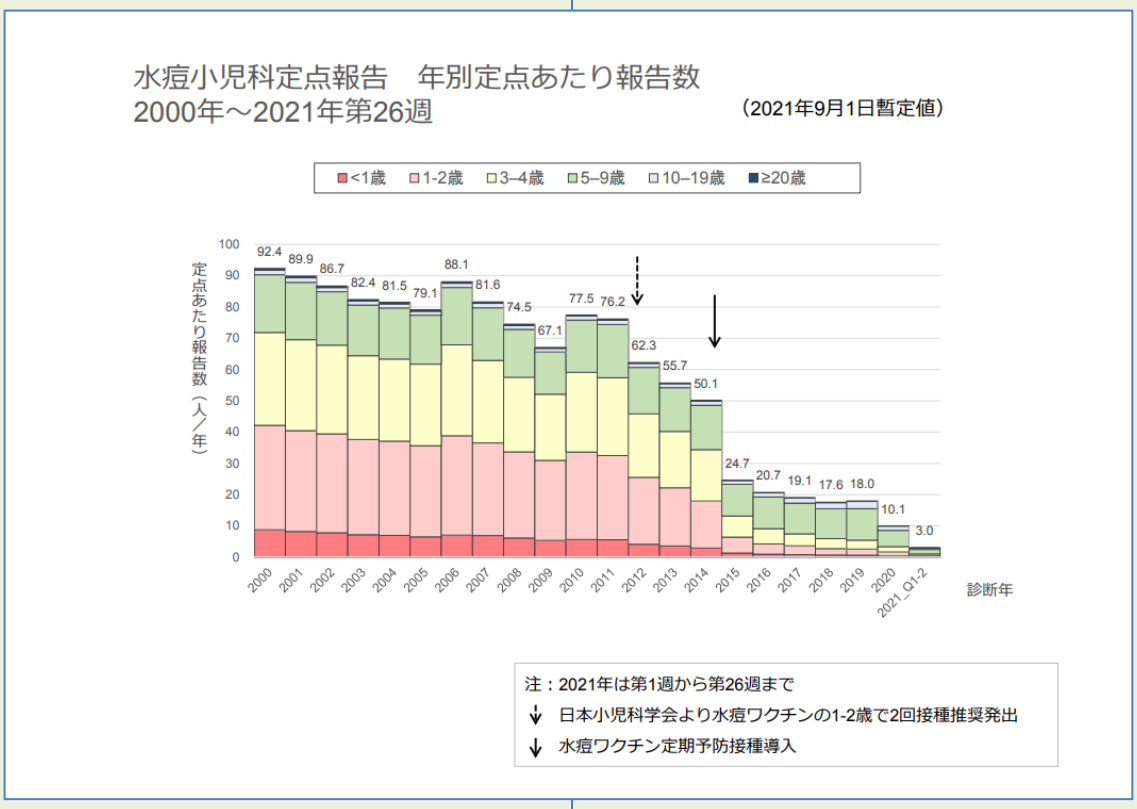
水疱瘡ワクチンは麻疹・風疹ワクチンと同じ生ワクチンですから、成人女性の場合、接種後は少なくとも1ヶ月は妊娠を避ける必要があります（日本では接種後2ヶ月、英国では1ヶ月とアドバイスされます）が、子供の接種においては、接種部位の腫れや微熱など程度で重い副反応は稀です。ワクチンに反応して出てくる発疹は子供では5％程度と言われています。

このワクチンには、水疱瘡の重症化を防ぐことができること以外に、もう一つ大きな利点があります。それは帯状疱疹を防ぐということです。帯状疱疹を起こすウイルスは水疱瘡を起こすウイルスと同じウイルスで、水疱瘡に感染した後、ウイルスが神経節にひそみ続け、体力が低下した時などに帯状疱疹として出現します。つまり、水疱瘡にかかれば水疱瘡のウイルスに対する抗体ができて、初感染の状態である水疱瘡は普通はもう起こらなくなるのですが、水疱瘡から回復しても既に体に入ってしまったウイルスを完全に除去することはできず、ぶり返して出てくるのが帯状疱疹というわけです。水疱瘡ウイルスに関しては、かかればもうかからない、ということと、かかったせいで起こってくる病気の状態がある、ということの両方を考える必要があるでしょう。

発行：　日本クラブ医療サービス委員会　　原稿：ジャパングリーンメディカルセンター　　金城葉子（きんじょう　ようこ）医師
日本クラブ　TEL: 020 7921 9490　Email: jimukyoku@nipponclub.co.uk　HP: nipponclub.co.uk

今、帯状疱疹を経験した人達は水疱瘡のワクチンを打っていなかった世代ですが、もしも防げたかもしれないということを知れば、ワクチン接種に諸手を挙げて賛成するのでは無いでしょうか。それほど帯状疱疹はつらいものです。（そのため高齢者にはワクチン接種をして発症リスクを下げることも行っています。）

英国でも「他国のデータに鑑み水疱瘡ワクチンを定期接種にすべき」という話は何度も出るのですが実現していません。そのため、一旦感染者が出ると学校でどんどん広がってしまうのです。あえて水疱瘡パーティなどで感染を広げる人達も跡を絶ちません。定期接種に反対する人達の理由は、ほとんどの子供は重症化せずに水疱瘡は終わる、ということと、子供達が周囲で水疱瘡に罹っていれば高齢者もその刺激で抗体価が再上昇し、帯状疱疹としてぶりかえすことを防げるだろう、ということと、費用です。しかし、既に長らく定期接種を行っている米国のデータからは、ウイルスに晒されなくなることで高齢者の帯状疱疹が増えたという報告はなく、ワクチン接種に反対するほどの根拠ではないようです。ワクチンによって水疱瘡関連死亡数が減少することも明らかになっており、英国での定期接種化が待たれるところです。



日本小児科学会　水痘ワクチン
https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/VIS_18suitou.pdf

感染症発生動向調査　水痘小児科定点報告
https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/varicella/varicella-220113.pdf

ジャパングリーンメディカルセンター
金城　葉子（きんじょう　ようこ）